

親子で体験「絵本の世界」(R 4. 11. 12 (土) ~11. 13 (日))

◆ 目的

- ・ 新型コロナウイルス感染症の感染拡大の影響により、体験活動等の機会が減少していることを踏まえ、読書活動の機会を設け、体験活動等の重要性を広く普及・啓発する。
- ・ 親子で体験活動を楽しみながら、読書活動の魅力を感じ、想像の世界を五感を使った実体験にすることで、新たな発見や気づきを楽しむ。

◆ 参加実績

- ・ 小学生を含む家族
- ・ 福井県、富山県より、6家族20名(未就学児4名 小学生7名 保護者9名)



↑アイスブレイクの様子

♪「おーちたおちた」のゲームをしているところ



↑自由時間の姿

兄弟や家族で絵本を読む姿が見られた



↑やきいも作り

葉っぱを使って美味しくやきいもができたことを喜んでた

◆ 日程

1日目 11/12 (土)		2日目 11/13 (日)	
時間	内容	時間	内容
13:00~13:30	受付	7:00	起床
13:30~14:15	開会式・アイスブレイク	7:40~8:20	朝食
14:30~17:00	ワークショップ①~森へ出かけよう~	8:45	振り返り・閉会式
17:00~	夕食		
18:00~	入浴		
19:00~21:00	ワークショップ② 子ども→夜の世界に飛び込もう★ 講師：絵本専門士 洞本昌哉氏 大人→スウェーデントーチを囲んでまったりタイム		
21:30	就寝		

◆ 成果

- ・ 落ち葉を使ったやきいも作りをすることで、「ばばあちゃんのやきいも大会」の絵本の世界を実体験することができた(写真①：活動前の絵本の読み聞かせ)。申込の時点で子どもや保護者から「落ち葉でやきいもを作りたい」という声があり、読書活動を通じて自然体験へのきっかけを提供できた。
- ・ 森の中に入る前に、海辺を散策したことで、シーグラスや海ゴミ、山から海に流れる水を見ることができ、SDGs15「陸の豊かさも守ろう」だけでなく、SDGs14「海の豊かさを守ろう」とのつながりに触れる機会を作ることができた。(写真②③：大浜の散策)
- ・ ゆとりのある時間配分にしたことで、五感を使って自然の中で過ごす時間や、興味関心のあるものにじっくりと向き合う時間を取ることができた。また、参加者全員が楽しめるようなプログラム内容にしたことで、未就学児ものびのびと自然の中で過ごすことができ、主体性を育むきっかけとなった。(写真④⑤：岩の沢野外炊事場にて) 保護者からも「ただ



↑写真①：ワークショップ前の導入

活動の導入に絵本の読み聞かせをしているところ



↑写真②：大浜にて

大浜を歩いて岩の沢野外炊事場へと向かう

外に落ちているものでも、子どもは嬉しそうに拾っており、子どもにとっては何でも宝物なんだなあと思った」といった声があり、それぞれの参加者が驚きや発見を得る時間となった。

- ・ アイスブレイクや、森の中の活動では子どもが親元を離れ、社会の中に溶け込んで楽しんでいる姿や子ども同士のやりとりを保護者が見ることができ、「子どもの成長が感じられた」といった声を多数いただいた。
- ・ 場面に応じて絵本を設置したことで、親子や兄弟姉妹で絵本に親しむ姿が見られた。(写真⑥⑦：絵本に親しむ様子・工夫) また、子どもから「他の人と本が読めて楽しかった」「しらないえほんがよめてうれしかったです」という声があり、本に多く触れる機会となった。
- ・ 親子別のプログラムで、大人だけの時間を設けたことにより、「夫婦のみで子どもの話ができて、良かった。(なかなかこういう機会はないので)」「火の音、におい、風を感じる事ができて、新鮮でした。」といった声があり、子どもだけでなく大人にとっても貴重な経験を提供することができた。事業の参加条件を「小学生を含む家族」と幅広い年齢層にしたことで、当施設に興味があったものの未就学児がいることでなかなか事業に参加できなかった家族の申し込みが複数あり、新規利用者を獲得するきっかけとなった。また、これまでにない絵本をテーマにした事業であったことや、福井県全域に広報をしたことで、遠方から参加する家族もあり、参加者の9割が当施設の教育事業に初めて参加する形となった。
- ・ 講師から、「絵本専門士の活躍の場ができた」「青少年教育に関わる活動について具体的にどんなことをしているのか知ることができた」という声をいただいた。また、「自分達でもやってみたい」という声もあり、今後の体験活動の普及へのきっかけができた。



↑写真③：大浜にて

海で発見したものを周りの人と共有する姿



↑写真④：やきいも作り

やきいもを作る焚火に夢中になる様子

◆ 参加者の声

【子ども】

- ・ ぜんぶよかった。1ばんはきめられない。
- ・ やきいもづくりがたのしかった。
- ・ やきいもづくりをもう一度やってみたい。
- ・ いろいろなものをもやしたことがたのしかった。
- ・ 他の人と本が読めて楽しかった。
- ・ 知らない絵本が読めて嬉しかったです。
- ・ 絵本の世界が一番楽しかった。
- ・ 絵本をよんでくれるのが楽しかった。
- ・ もりにいったのがたのしかった。
- ・ 木の中の音を聞いたらガタガタした。
- ・ よるのほしをきるのがたのしかった。
- ・ 自分たちで作った星がきれいだった。

【保護者】

○事業全体を通して

- ・ いつも家で見せるのとは違う、子どもの一面が見れてよかった。
- ・ 子ども達の成長が感じられて、嬉しかった。
- ・ どの活動も子ども達が生き生きと楽しめていました。
- ・ 小学校の子はもちろん、下の年少さんも楽しめたようで良かった。
- ・ 大人も子どもも楽しめて良かった。子どもの絵本を読んで、環境について考えさせられました。
- ・ イメージと現実をつなげる体験で、とても面白かったです。
- ・ ひとつひとつのプログラムが初めての体験で楽しかったです。
- ・ 子どもの絵本を読みたいと思いました。
- ・ 少人数での運営なので大変だと思いますが、ぜひ続けてほしい。

○森の中で過ごしてみても

- ・ ゆっくりと森の中で過ごせてよかった。
- ・ 公園やアスレチック等がなくても、子どもが飽きずに遊んでいた。
- ・ 葉っぱを踏んで歩く音、夕日がおちるところなどを見れてリラックスできま



↑写真⑤：やきいも作り

落ち葉の中に隠れているさつまいもを探している



↑写真⑥：岩の沢野外炊事場にて

野外炊事場にも絵本コーナーを設置



↑写真⑦：岩の沢野外炊事場にて

やきいもができるまで、姉妹で絵本を読んで過ごしている姿

した。

- ・ 火の音、におい、風を感じることができて、新鮮でした。

◆ 事業運営のツボ・工夫・反省

【準備】

- ・ 絵本専門士との新たな連携を開拓するために、8月頃から準備を開始し、事前の打ち合わせを複数回行った。事業の概要を説明し、プログラム内容を相談したことで、SDGsに関わる絵本の導入を提案していただき、プログラムで活用することができた。
- ・ SDGs関連の絵本を87冊購入したことで、絵本コーナーのあるくつろぎホールの内容が充実し、より読書に親しみやすい空間を演出することができた。(写真⑧⑨：くつろぎホール)
- ・ プログラム計画書を作成し、目的やねらい、流れを明文化したことで、事業に関わるスタッフが同じ目的を持ってプログラム内容を検討することができた。
- ・ 広報のペーパーレス化やSNSの活用を前向きに検討していくこと、参加対象者が全学年と幅広いことを踏まえ、従来の嶺南地区の小学校の参加対象者全員にチラシを配布する形ではなく、福井県内の子育て支援センターなどの公共施設ならびに嶺南地区の公民館・図書館へのチラシの配布、全小学校へのメール配信、WEBのみで行った。
- ・ 翌日に実施される「わかさわんクラフトマルシェ」と連携を行い、解散後に参加できるように設定したこともあり、募集の2倍近い応募を得られた。



↑写真⑧：くつろぎホール
SDGs関連絵本コーナー



↑写真⑨：くつろぎホール
SDGsの紹介を貼った掲示板

【運営】

- ・ 若狭湾の特徴を生かしながら絵本の世界と親しむことができるよう、「絵本×自然」プログラムを組んだ。1日目、昼のプログラムでは、親子で自然の中で過ごしてもらい機会を設け、「森にでかけよう」「ばばあちゃんのやきいも大会」の絵本のお話をもとに、落ち葉を用いたやきいも作りを行った。
- ・ 事前にシーツを各部屋に配布したり、職員1名が先にワークショップ会場に行き、火起こしの準備をしておいたりするなど、人的・物的環境を整えておき、参加者にはできるだけ時間にゆとりを持ってもらえるように工夫した。
- ・ SDGsとのつながりとして、昼のプログラムでは海辺の散策をスタートとし、自然歩道を通して自然の家に帰ってくる経路を設定し、SDGs14と15のゴールの視点を意識してもらい機会を設けた。また、海では、絵本「あなのはなし」やシーグラスをきっかけとして海の生き物や汽水、海ゴミの話をし、やきいも作りの会場の岩の沢野外炊事場では熊手や聴診器、ルーペ、ブルーシート等を用意するなど、それぞれが自由に森と触れ合えるような仕掛けを設置した(写真⑩⑪：岩の沢野外炊事場にて)。ただし、各々の使い方を楽しんでいる姿があったものの、参加者全員により「自然」に目を向けてもらうためには、一つずつの道具の使い方や魅力の説明をすると、さらに発見の多いものになったのではないかと感じた。
- ・ 講師の希望もあり、夜は親子別のプログラムを行った。子ども達は講師との時間を、大人は子ども達と離れて大人自身も体験活動を楽しんでもらうために、島の越野外炊事場でスウェーデントーチの火起こし体験を行った。絵本専門士との時間では、絵本を用いて、SDGsに関連したおはなしの読み聞かせや、星空づくり(写真⑫：星空を眺める姿)を行った。子ども達の声を拾ってプログラムが進行されていたこともあり、子ども同士で絵本を読みあう姿や、年下の子どもを気遣う姿も見られ、子ども達が主体的に絵本と関わる時間となった。
- ・ 大人のスウェーデントーチの火起こし体験では、火を囲みながら自由に過ごす時間や、体験活動についての話を通して、「ゆっくりできて良かった」「昼間に子ども達の意外な姿が見られて良かった」といった声を多数いただくことができた。また、星空を眺める時間を設けたことが、子ども達の星空づくりの内容とつながり、プログラム終了後に親子で本物の星空を観察しに行く姿が多く見られた。

というキーワードをもとに



↑写真⑩：岩の沢野外炊事場にて
聴診器を用いて木の音を聞いている



↑写真⑪：岩の沢野外炊事場にて
未就学児もルーペを覗き込んでいた



↑写真⑫：講師による夜のプログラム
テントの中に現れた自分たちで作った星
で作った星空を眺める様子